令和５年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号 18　石神井中学校

	課題分析	授業改善策
国語	アンケート結果から「知識・技能」が伸びたと感じている生徒は９０％を超えているが、「思考・判断・表現」は１０％程度の生徒が十分に身に付いていないと感じている。生徒が学習成果をさらに実感できる学習活動が必要である。	「思考・判断・表現」する力を身に付けることができたと実感できる学習活動や機会を増やす必要がある。具体的には、作文や発表などのフィードバックを口頭やワークシートを通して伝えたりすることで、生徒の学びの実感を積み重ねていく。
社会	アンケートを分析した結果、「思考・判断・表現」が伸びたと感じている生徒は８０％を超えているが、「知識・技能」は、１０％未満の生徒が十分に身に付いていないと感じているようである。	問題集を活用し、小テストの内容を工夫するなどして「知識・技能」を伸ばしていく。また、その結果を踏まえて、個別指導にいかしていくことが必要である。
数学	アンケート結果から「知識・技能」「思考・判断・表現」が伸びたと実感している生徒が８０％程度である。少なくとも、知識・技能は９０％後半まで上げていきたい。	小テストなどを通して、成長を実感できる機会を増やしていく。計算や作業一つとっても根拠をもって納得しながら進めていけるようにする。
理科	アンケート結果から「知識・技能」が伸びたと感じている生徒は８５％を超えているが、「思考・判断・表現」は１０％程度の生徒が十分に身に付いていないと感じている。	日頃の授業や実験において、考えさせる「発問の工夫」、考察するうえで必要な「基礎事項」の確認、考察する「時間」を増やすなど行い、思考・判断・表現を伸ばせるように、ていねいに行う。
音楽	アンケート結果より３学年では３観点について伸びたと実感できていない生徒が１０％以上いる。生徒が学習成果をより実感できる学習活動が必要である。	学習活動に主体的に取り組めるように、クラスルームに学習している曲の案内をし、家庭学習ができるようにする。思考・判断・表現の力を伸ばすためにグループでの共同作業を多くして自由に意見を言える場を作るよう努めていく。
美術	アンケート結果より、「思考・判断・表現」が伸びたと実感できていない生徒が３学年で１７％いる。生徒が学習成果をより実感できる学習活動が必要である。	授業の導入で、思考・判断・表現の力を伸ばす練習問題に繰り返し取り組み、造形表現の考え方のポイントについて理解を深められるようにする。
保健体育	調査より、教員はわかりやすく説明し、手本を示している。しかし、比較的「思考力・判断力・表現力」が伸びたと感じている生徒の割合が低いので、それができるような学習活動に改善する必要がある。	運動において、よりよくできるような思考の仕方の例を示し、「思考・判断・表現」する場面を増やす。また、提出物の返却を通して、自己の課題を把握できるようにする。
技術・家庭	先生の話し方、資料提示、対応、指示は「とても思う」がどの学年も６０％前後に対し、生徒の３観点の力が伸びた実感は４０％前後である。よって、生徒が学習成果をより実感できる内容が必要である。	レポートやワークシートの書き方や考え方を改めて指導し、自分の考えを整理して表現できるようにする。
外国語（英語）	アンケート結果より、「知識・技能」の伸びを実感している生徒が約９０％いるが、「思考・判断・表現」の伸びを実感できていない生徒が約１０％いる。学習した成果を実感できるような工夫が必要である。	授業内や、単元終わりなどの活動を通して、「思考・判断・表現」の伸びを実感できる機会を設けていく。スピーチ活動やインタビュー活動、ライティング活動などを実施して、思考・判断・表現の力が身に付いたという実感が湧くように学習活動を工夫する。

＊アンケート・・生徒による授業評価アンケート（7 月実施）